

令和3年度 宇佐市興農会被表彰者

(敬称略)

No.	表彰区分	氏名 (法人代表者)	住所	功績等
1	農業後継者	いまに かつまさ 今仁 和正	大字今仁	<p>高校を卒業後、民間企業に勤務していたが、父親の農業を手伝うため退職し帰郷。県内の民間企業に勤務する傍ら、父親の下で農業の知識と技術を習得し農業を継承。認定農業者として認定も受け、水稻・麦・大豆を主品目とし意欲的に農業に取り組んでいる。</p> <p>農業を専業とできるよう農地中間管理機構からの貸し付けを受け、規模拡大と農地の有効利用による増収と増益を目指している。</p>
2	農業後継者	つる せいいち 都留 誠一	大字南宇佐	<p>県立農業大学校を卒業後、高森地区で就農。高森地区の人・農地プランの中心経営体として位置づけられ、高齢者の多い地区農業の後継者としても農地の保全に大きく貢献している。農作業の効率化を図るため、パソコンなどを活用して、圃場や栽培の管理をはじめ作業計画、作業記録の進捗管理を行っている。</p> <p>現在、宇佐市青年農業者会議の副会長として、農業イベントなどへも積極的に参加し農業の活性化に努めている。</p>
3	優良生産農家	あべ てつお 安部 哲男	院内町 田所	<p>田所地区は中山間地域に位置するため、水田の枚数が多く耕作条件は不利であるにも関わらず、高齢化などにより耕作できなくなった農地を借り受けて経営面積の拡大を行っている。</p> <p>地域住民からの信頼も厚く、近くで困っている高齢者がいれば、草を切ってあげたり、畑をトラクターで耕してあげたりするなど、優しさを兼ね備えている。農作業に励んでいる姿は、近隣の農家にとって大きな目標となっている。</p>
4	優良生産農家	まつお きみあき 松尾 公明	大字宮熊	<p>県内の会社に勤めながら兼業農家として農業に携わっていたが、退職を期に専業農家として従事。認定農業者として農業に意欲を燃やしており、地区内では農業経営の将来に不安を感じている人が多いなか、地域農業の受け皿となり、耕作放棄地の増加を防止するため、積極的に農地の借り受けを行っている。</p> <p>地区の土木委員のほか、圃場整備事業の委員として、効率的で安定的な営農環境の整備に向け尽力している。</p>
5	優良生産農家	まつなが こうじ 松永 幸治	大字山本	<p>平成28年に帰郷後、県内の企業に勤務しながら両親の農業を支援。令和元年より本格的に農業に従事。</p> <p>大型機械の導入はもとより、ドローンを購入し田畑の消毒などを行い、農作業の効率化を図っている。米・麦・大豆を主に作付けしているが、ニンニクや白ねぎなどの栽培も試行しており、安定した収益の向上を目指す努力を怠っていない。後継者が就農しており、今後は更なる経営規模の拡大を目指している。</p>
6	優良生産農家	はらい ひでひこ 原井 英彦	大字荒木	<p>昭和43年から農業に従事。少子高齢化が喫緊の課題となる中で、荒木地区においても農業の後継者、担い手不足に直面している。</p> <p>このような状況下において、地域の農業は地域で守るという観点から営農組合の組合長および多目的機能支払制度の副代表として、農業の持つ多面的機能の維持や管理をはじめ、地域の担い手への農地利用の集約に積極的に取り組み、地域農業の活性化を図るため尽力している。</p>

令和3年度 宇佐市興農会被表彰者

(敬称略)

No.	表彰区分	氏名 (法人代表者)	住所	功績等
7	優良生産農家	たぐち かつのり 田口 勝典	安心院町 廣連	<p>兼業農家として、中山間地域直接支払制度で超急傾斜地に指定されている棚田を維持。離農者の耕作放棄地を買い取り耕作規模を拡大するとともに、集落の景観の維持に貢献している。</p> <p>無農薬農業に取り組む傍ら、体験農業や体験林業を催行し、広連地区では現在中断されているグリーンツーリズムの復活を目指している。集落内唯一の3世代家族であり、子どもたちの元気な声により、高齢者に元気を与えている。</p>
8	優良生産農家	やまぐち ひでひこ 山口 英彦	大字上矢部	<p>30代の頃に、渇水による米の不作が続いたため、みかん作への転換を推進した結果、他地区からの移住もあり地区の活性化に繋がった。40代には、農業の近代化、効率化のため、新型農業機械の導入やデモンストラーションを行い、各戸への機械導入のためのモデルとなった。</p> <p>現在は地元の水源として重要なため池の工事が行われており、高齢であるにも関わらず、これまでの経験と人脈を生かし、池長として活躍している。</p>
9	優良生産法人	(有) フラワーうさ だいひよししまりやく すがはら これのり 代表取締役 菅原 維範	安心院町 尾立	<p>異業種から持前の積極果敢な経営拡大により、農業と花きの両部門への業態拡大を図り、市内でも主要な営農法人に成長させた。</p> <p>地区内の農業者の高齢化に伴い、自作不能な農地が増える中、尾立・檜本地区での耕作受託を皮切りに、津房地区内外に拡大して飼料用稲など大規模な転作に取り組んでいる。途絶えていた冬季の小麦栽培による耕地の高度利用や花き部門への業態拡大も実践し、農業の振興に大きく寄与している。</p>
10	優良生産法人	(農) きべえいのう 木部 営農	大字木部	<p>地域のまとまりが弱いため生産調整もままならず、地域振興の妨げとなっていた。この課題を解消しなければ地域の発展はないと考え、個人経営から集落営農へ転換することとし、就業条件整備や機械化貧乏からの脱却を有効に進めるため法人を設立。</p> <p>木部および飛永地区を受益集落として水稻、飼料作物を中心に地域営農を展開し、個人が所有する機械の整理によるコスト低減を図っている。</p>
11	優良生産法人	(農) かみちけい 上高家	大字上高家	<p>個人主体の任意組合での農業経営に限界を感じ、機械設備の過剰投資からの脱却と農地の高度利用による収益性の高い農業を確立するため法人化。</p> <p>高齢化などにより営農を断念する農家が増えているため、上高家、東高家、西高家、下高家地区を中心に集落ぐるみ型を目指し、農地の集積による農業経営の一本化を図り、生産性の向上と地域の連帯と活性化に取り組み、地域農業を守っている。</p>
12	優良生産法人	(農) りょうかいえいのうくみあい 両戒 営農組合	大字両戒	<p>集落内の農地を守り、農地の高度利用による収益性の高い農業を確立するため農事組合法人を設立。</p> <p>両戒、岩崎、和気、山、江熊地区を受益集落としており、若いオペレーターが運営に関するアイデアを活発に提案し、組織運営に対し前向きに取り組んでいる。</p> <p>高齢化や条件不利地での営農を断念する農家が増える中、麦の単収向上と計画的作業の検討と実践により、次代を担う農業者の育成を目指している。</p>

令和3年度 宇佐市興農会被表彰者

(敬称略)

No.	表彰区分	氏 名 (法人代表者)	住 所	功 績 等
13	特別功労者	おおいたけんりつ 大分県立 あじむこうとうがっこう 安心院高等学校	安心院町 折敷田	安心院・院内地域内の事業所と連携し課題研究や商品開発に取り組んでいる。地域の文化、地域の自然や産物、地域の力について日々学び、安心院葡萄酒工房とのワインのラベルデザインの考案や校内6次産業化による地元小学生との学習、次世代応援地産地消商品コンテストでは最優秀賞を受賞した。取り組みの中において、行政をはじめ地元企業などに地域おこしや地域の活性化に関連する様々な提案を行い、ワインをはじめとする農産加工品のPRや地元製品の消費拡大、宇佐市の情報発信に大きく寄与している。